

〔圖會〕年中行事大成正月十四日歲越 今夜諸公家の奴僕圓餅を杖杖に挿み、諸家ごとの門戸を
 敲く、則此餅十五日小豆粥の内に入煮てこれを食す、これも亦疫を逐ひ福を索るの微意なり、
 十五日小豆粥祝略中 今日小豆粥の中へ餅を入れて食す、是を粥柱と云、また福沸といふ、此粥を
 粘として、牛王神札を貼る、皆疫を避る法なり、此粥柱を入れる、事古き事にや、枕草紙に十五日も
 ちかゆのせくまいると見えたり、下野國には、漆膠木を尺許に切、半は皮を去、其所を木口より四
 ツに割、小豆粥の内へさし入て、粥の付たるを門戸に祭る、是を粥箸と云、

〔守貞漫稿二十六〕正月十五日、十六日、俗ニ小正月ト云、元日ト同ク戸ヲトザス、又三都トモニ今十五日
 朝赤小豆粥ヲ食ス、京坂ハ此カユニ聊カ鹽ヲ加フ、江戸ハ平日カユヲ不食、故ニ粥ヲ不好者多ク、
 今朝ノカユニ專ラ白砂糖ヲカゲテ食ス也、鹽ハ加ヘズ、又今日ノ粥ヲ餘シ蓄ヘテ、正月十八日ニ
 食ス、俗ニ十八粥ト云、京坂ニハ此コト無シ、略中 江戸ニテハ武家及ビ市民トモニ、削リ掛ト云物
 ヲ、今日ノカユヲ以テ諸門戸ニ垂ル、柳ノ木ヲ以テ制之、上ハ箸ノ如ク、下ハ圖ノ如ク、略中 細ク削
 リ掛タリ、小ナル物長二三寸、大ハ尺餘モアリ、武邸等ハ尺餘ノ物ヲ用フ、民戸ハ專ラ小形多シ、門
 戸正中ノ上ニ釣ル、略中 南畝號蜀山人ト號ス、爰ニ二三、曰、削掛ケ二三ヶ年前迄ハ門松ヲ割リ、
 或ハ柳ヲモ削ル、今ハ削ル人ナシ、守貞云、今ハ自ラ不削也、數十ヲ四錢計ニテ賣リ來ル故也、古
 ハ自制也、

〔東都歲事記正月〕十五日 貴賤今朝小豆粥を食す

〔延喜式十三〕十五日正月 粥并酒肴給内侍已下女孺已上

〔延喜式四〕正月十五日 供御七種粥料中宮 米一斗五升、粟、黍子、稗子、藁子、胡麻子、小豆各五升、鹽

四升、土盤七口、鏡形五口、片盤十口、阿世利盤三口、瓮塙各七口、陶洗盤麻笥盤各二口、臼一口、匏八柄、
 柏廿把、炭二石